

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に8回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## 伊藤知治教士八段剣道教室

### ～ 技を磨き、心を鍛える～

北都留地域教育推進連絡協議会(石井由己雄会長)、大月市剣道連盟(佐藤芳三会長)、上野原市剣道連盟(村上晃久会長)、富士・東部教育事務所(望月俊克所長)は、10月5日(日)に大月市勤労青年センターにおいて、「伊藤知治教士八段剣道教室」を開催しました。

大月市出身、現在警視庁名誉主席師範の伊藤先生を講師にお招きして、「子どもたちとの稽古・ふれあいをとおし、剣道



に精進すること、技や生き方に目標をもつことができる機会とすること」を目的に開催された同教室は、今年で10回を数えます。当日は、大月市・上野原市などから豆剣士や中学校・高校の剣道部員、関係者を合わせて約110名が参加。

伊藤教士はあいさつの中で、「剣道の心を、日常生活にも生かしてほしい。剣道を通して、他を思いやる心、強い心を育ててください。」と話されました。参加者は約2時間にわたり、剣道に臨む心構えや実技練習についてきめ細かい、熱心な指導を受けました。全体指導のあとに行われた代表児童生徒手合わせ・模範稽古では、伊藤教士の気迫と剣士達の気合いの入った姿勢に、会場全体は張り詰めた空気に包まれました。子どもたちに夢と希望を育むとともに、互いの絆を深める有意義な一日となりました。



## 2014 わかつるサイエンスフェスティバル in 都留高 SSH

### ～新しい発見をして科学の面白さを体験しよう～

県立都留高等学校(志村憲一校長)と北都留地域教育推進連絡協議会(石井由己雄会長)は、10月11日(土)に都留高校80周年記念館鶴聲ホールにおいて「2014 わかつるサイエンスフェスティバル in 都留高 SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)」を開催しました。



南北都留地区の小学生と保護者を対象に募集しましたが、75組150名の定員に対して157組355名が希望と大人気。選考の結果、当日は159名が参加しました。

地域の児童のみなさんに、「科学のおもしろさ」を体験して「科学への興味関心」を高めてもらおうと企画した同フェスティバルは、平成17年度にスタートして今年度で10回目を数えます。(平成22年度までの名称は「科学の祭典」)

開祭式に続き、前半は3つのグループに分かれて「チャレンジブース」を体験。それぞれ「カチャカチャきりり」「トースターでキーホルダー」「タネを食べる虫のしくみ」の3種類の科学に楽しみながらチャレンジしました。後半は、「飛ぶ種の模型をつくろう」「スライムを作ろう」など13ヶ所の「遊びの広場」で思い思いに科学の不思議やおもしろさについて学ぶことができました。

実験の指導や説明は、SSHの1・2年生75名が担当。参加した児童にわかりやすく、丁寧に説明していました。参加した児童の一人は「科学って、不思議なことがたくさんあって本当におもしろい。実験でいろいろなことが分かった。また、来年も参加したい」と感想を述べていました。

## 明日の風 アスリート実技講習会

～より早く より高く より強く～

明日の風 アスリートクラブ・北都留地域教育推進連絡協議会主催の「第3回 明日の風アスリート実技講習会」が、10月4日(土)大月市菅陸上競技場で開催されました。



今回は、大月市・上野原市の小学2年生から中学3年生までの52名が参加。100m・400m・800m・80mH・走幅跳・三段跳・走高跳・ボール投げの競技種目別の記録会が行われました。

保護者と一般の方々は、国際ノルディックウォーキング連盟公認マスターインストラクター依田武雄(都留文科大学非常勤講師)を特別講師にお招きして、「ノルディックウォーク」を体験しました。

また、10月11日(土)には「第4回 明日の風アスリート実技講習会」を同会場で開催。試験期間中の中学校があったため、20名の参加となりましたが、ウォーミングアップの後、



参加者は100m・60mH・1000m・走幅跳・走高跳・ボール投げに爽やかな汗を流しました。

## 秋季臨地研修

～富士に学び 富士によりそい 富士と生きる～

南都留地区社会教育委員連絡協議会及び公民館連絡協議会では、10月2日(木)に臨地研修会を開催しました。年1回開催される研修会で、本年度は昨年度に引き続き、富士山と信仰・芸術の関連遺産群を見学し、富士山信仰・歴史・富士北麓の自然と私たちの生活の関わりについて学びました。



南都留地区での研修会は北都留地区でも高評価を得ており、毎年、多くの方の参加を得ています。本年度も大月市から8名、上野原市から5名、南都留地区の参加者と併せて総勢52名が参加。

当日は、「船津胎内樹型」「河口浅間神社」「富士御室浅間神社」「西湖いやしの里 根場」等の見学。また、「まゆ玉を使用した創作活動」を体験しました。

研修会のガイド役として、富士河口湖町職員(社会教育担当・学芸員)杉本悠樹氏に担当していただき、それぞれの施設にまつわる説明を詳しくしていただきました。参加者は杉本氏の広く深い知識に感心し、より興味を持って数多くの質問をしていました。



研修会のガイド役として、富士河口湖町職員(社会教育担当・学芸員)杉本悠樹氏に担当していただき、それぞれの施設にまつわる説明を詳しくしていただきました。参加者は杉本氏の広く深い知識に感心し、より興味を持って数多くの質問をしていました。

## ホタルが飛び交う水辺の再生プロジェクト

～公開飼育場所の整備活動とカワニナの放流～

忍野ユネスコ協会(長田五月会長)では、忍野村の新名庄川流域において、「再びホタルが飛び交う水辺へと再生するプロジェクト」に取り組んでいます。

自然環境がフィールドとなるこの事業は、忍野村や同村教育委員会等と連携し、10年計画で進められます。今年はこの長期計画の1年目にあたり、忍野ユネスコ子どもクラブと一緒に川の水質検査を行ったり、環境観察会や勉強会を実施。また、一般の方を対象に水やホタルをテーマにしたミニセミナーや報告会を計画しています。

9月7日(日)には、忍野村の「さかな公園」内においてホタルの公開飼育場所の整備を行いました。当日は、日本ユネスコ協会のメンバーの協力を得て、飼育場所の清掃や網張り、看板の制作と設置を行うとともに、ホタルの幼虫の餌となるカワニナの放流を行いました(右写真)。また、ホタルの公開飼育の水場につながる橋は「ほたるばし」と命名され、橋の親柱に木札が掲げられました(上写真)。

今後は、幼虫の飼育と放流に向け、活動の輪をさらに広げていく予定です。



## 第32回 吉田空襲展 ～伝えていこう吉田空襲の歴史、そして平和について語ろう～

今から69年前、市内の飛行機工場が2度にわたり空襲を受け、死者12名、重傷者20数名を出した吉田空襲。空襲の事実を伝え、戦争や現代社会の課題の情報を提供するとともに、児童生徒が主体的・自主的に平和について考える交流の場とすることを目的に、第32回吉田空襲展が富士吉田市民会館で開催されました。



「戦時中のパネル写真と生活用品」「市内小中学生の作品と平和ポスター」「高等学校の企画展示」などの一般展示のほか、「吉田空襲フィールドワーク」「高校生による親子映画会大型紙芝居」「ことぶき勤学院のみなさんとのおふれあいコーナー」などの特別企画を開催。また、昨年に引き続き、シリアで取材中銃撃され亡くなった都留市出身のジャーナリスト山本美香さんに関する資料も展示されました(写真)。パネルディスカッション「父と旧友が語る山本美香さんの足跡」では、児童・生徒や保護者約200名の参加者とともに戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えました。

「過去に学ぶ」とともに、「戦争」の対義語としての「平和」という枠組みだけでなく、「紛争」や「災害」を通しての「平和」について考えることが出来た空襲展でした。



## 都留興譲館高校・都留文科大学 高大連携調印式

～教育内容の充実と学生・生徒の資質向上を目指して～

県立都留興譲館高等学校(上小澤仁志校長)と都留文科大学(福田誠治学長)は9月22日(月)、同大学で高大連携事業に関する協定を結びました。

高校生が大学における学習等を体験することにより、学習・進路に対するモチベーションを高め、自らの生き方・あり方について考える機会とするとともに、大学側では高校教育現場を知り、現状に対する理解を深め、キャリア教育や就職支援を行うことを目的に、今回の連携事業をスタートしました。

桂高校が都留文科大学と行っていた公開講座や部活動の連携活動を都留興譲館高校が引き継いだ上に、出前講義の実施や教育実習への協力、大学祭や学園祭、課外活動における交流活動の促進等さらなる充実を図っていきます。

特に、英語教育については谷村第一小学校・都留第一中学校とともに児童・生徒の英語の交流授業や研究授業、教員同士の授業参観等を実施して連携事業を推進する予定です。

上小澤校長と福田学長は、「今回の事業を通して地元都留市に寄与するとともに、この事業を日本中にアピールし、将来的には単位に関する交流も視野に入れながらこの事業を進めていきたい」と述べていました。

## チャレンジ! 上高アニメシオン

～仲間と一緒にコミュニケーションしながら本を読もう!!～

県立上野原高等学校(田口尚弥校長)では図書委員会を中心に、「読書へのアニメシオン」に取り組んでいます。10月4日(土)には、今年度2回目の「上高アニメシオン」が大月市立図書館において開催されました。今回は大月市内の中学生10名、上野原高校生14名が参加しました。



「読書へのアニメシオン」とは、「子どもの読む力を引き出すメソッド」で、子どもの発達段階に応じて75の方法(作戦)があります。参加者は事前にテキストを読み、「アニマドール」という司会者により会が進行されます。

今回は75の作戦のなかで、2つの作戦が行われました。一つ目の作戦は、作品の一節が書かれたプリントを参加者にランダムに配布します。参加者はその一節が作品のどこに書かれてある文章かを説明。続いてアニマドールがその内容に関連した質問をし、それに答えるという「内容確認」の作業です。二つ目の作戦は、登場人物役とギャラリー役に分かれ、互いに質疑応答をします。登場人物の気持ちになって質問に答えますが、正解はありません。各自が作品の情景や背景を感じ取り作品全体をとらえ、登場人物の気持ちを考えることを目的とする作戦です。当初は緊張していた参加者も、「アニマドール」のリードにより活発に意見を交わすことができました。

上野原高校では「上高アニメシオン」を通して、他の人の意見を聞き、自分とは違う物の見方や考え方を発見し、思考力や判断力、問題解決能力を身につけることを、今後も続けていくとのことでした。

## 青い麦の子大会

～「交流と助け合い」で、有意義な1日を過ごす～



9月26日(金)、南都留特別支援教育研究会(会長:高村始吉田西小校長)では、「交流と体験的な活動を通し生活能力を高めるとともに、協力し助け合うことの楽しさを学ぶ」ことを目的に、富士スバルラ

ンド森林公園において「青い麦の子大会」を開催しました。

当日、南都留地域の公立小・中学校の特別支援学級に通う児童・生徒116名と、引率の先生117名が参加。午前中は体育館で開会式が行われましたが、趣向を凝らした自己紹介で緊張していた気持ちも徐々に和らいだようです。引き続き、各中学校の生徒が企画・運営した、ピンゴ・じゃんけん列車・ダンスなどのゲームを楽しみ、他校の児童・生徒と交流を深めました。

午後はドギーパークに移動して、晴天の秋空のもと芝生広場で昼食。その後は、ドッグショーの見学や犬とのふれあい、ジャンボ滑り台やアスレチックなどで遊んだり、普段、校内では経験できない体験を、自然の中で思う存分楽しむことができました。参加者は楽しい思い出をたくさん作る事ができたようです。

## 富士北稜高校「在宅訪問活動」

～高齢者宅の草取り・清掃活動に汗を流す～

県立富士北稜高等学校(宮下仁校長)では、富士吉田市内の一人暮らしや要介護の高齢者のお宅を訪問し、奉仕活動を行いました。



この活動は、勤労体験を通して思いやりの心を育み、社会福祉に貢献

できる自覚を高めることを目的に、同市社会福祉協議会の協力を得て、年間2回実施。地域に根ざした活動として、開校当初より行われており、今年で10回目となります。

今回は、1～3年生の参加希望者約60名が14軒に分かれて、敷地内の草取りや木の枝打ち、窓ふきやお風呂場・台所の清掃等を行いました。作業終了後は、高齢者の方の話を伺うなど交流を深めました。

在宅訪問を受けた高齢者の一人は「毎回楽しみにしています。生徒のみなさんが一生懸命してくれるので本当に助かります。」と笑顔で答えていました。また、参加した生徒は「喜んでもらえて良かったです。これからも自分たちが出来ることを続けていきたいと思います。」と話していました。次回は、11月に実施する予定です。



## 西桂保育所・西桂小学校「ふれあい給食」

### ～ 小学校入学への準備～

西桂保育所(加藤なお美所長)と西桂小学校(石井明宏校長)は、10月7日(火)に年長児24名と小学1年生32名合同の「ふれあい給食」を実施しました。



「ふれあい給食」は、「年長児にとっては小学校の生活や給食に対する不安を減らして、楽しみにする気持ちがある。また1年生にとっては、小学校での生活や給食の様子を年長児に教えることにより、自分たちがいろいろなことができるようになったことを知り、これからの生活の励みとする」ことをねらいとしています。昨年度から始まり今年度で2回目となります。

この日、1年生は年長児の配膳の手伝いをするなど、『先輩』として活躍。保育所の教育ファームで年長児が収穫したジャガイモも給食の食材となり、西桂小学校の食堂でみんなでおいしく給食をいただきました。給食後は、ふれあいゲームを楽しみ、交流を深めていました。

保育所子どもたちにとっては、小学1年生に一步近づいた1日になったようです。

## 富士河口湖町立教育センター「川の学習」

### ～ 目・耳・体全体で学んだ川の学習～

富士河口湖町立教育センター(小佐野雄也センター長)では、町内の小学5年生を対象に8月下旬から9月下旬にかけて「川の学習」を行いました。台風などの影響により若干の日程変更がありましたが、今年も無事、実施することができました。



この学習は、「流れる水のはたらき」の単元において、川の様子を実際に観察したり、体験することで「中流と上流の石のようすの違いや水の流れる速さの違い」

「川の外側と内側の流れの違い」「川の災害を防ぐための護岸や堰堤」等について理解を深めます。

川にバケツを入れて手応えで流れの強さを知ったり(写真)、葉っぱを流したり石の大きさや形、砂の積もり具合を観察することで川のどの部分の流れが速いかを調べます。また、堰堤を見学してそのはたらきや川に関する災害について学習しました。

体全部を使って体験し、学ぶことができた「川の学習」となりました。

## 下吉田中学校「高校の先生方から学ぶ会」

### ～ 高校の授業を体験～

富士吉田市立下吉田中学校(田辺守之校長)では、高校での学習や生活に理解を深めるとともに、将来の自己の生き方について考える機会として、9月25日(木)「高校生の先生方から学ぶ会」を開催しました。



この日は同中学校の3年生約200名が参加し、県立吉田高等学校(坂本明大校長)の6名の先生が、国語・地歴・数学・物理・英語・美術の授業を実施。参加した生徒達は普段とは少々違う内容に戸惑う場面もありましたが、互いに質問や確認をし合いながら、授業に興味をもって取り組んでいました。

授業後は、「高校に入学を目指す生徒が身につけるべき社会性や生活・学習態度」等についての説明がありましたが、進路決定を控えた生徒は、高校の先生の説明に真剣に耳を傾けていました。

## ひばりが丘高校「第10回雲雀祭」

### ～ 日々の生活や体験を表現～

県立ひばりが丘高等学校(安藤昇校長)では、第10回雲雀祭を9月2日(火)・3日(水)の2日間の日程で行われました。本年度は舞台発表とBBQを1学期に開催し、今回は創作授業で製作した作品発表と、芸術鑑賞会および校内生活体験文発表大会が行われました。



芸術鑑賞会では、「パーカッション・パフォーマンス・プレイヤーズ」が来校し、素晴らしいパフォーマンスを披露しました。

また、校内生活体験文発表大会では、各クラスの代表16名が出演。日々の生活や学校や職場での体験を発表しました。「仕事を通して変わってきた自分」「恵まれない環境でも前向きに頑張ることの大切さ」「今までの自分への後悔」「家族や仲間への感謝の気持ち」等、それぞれが今までの自己を見つめ直し、将来に向けての目標や夢を力強く発表した会でした。発表を聞いている生徒のみなさんの態度も素晴らしく、発表内容と各自の体験とを重ね合わせることができたようでした。

優秀者は、10月に行われる県定通教育祭において、学校代表として発表する予定です。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841